

平成 1 6 年 2 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室（青梅市駒木町 1-684 0428-23-6859）

成木川と青梅市内の最低地点

青梅市の市域は、総面積 103.26 平方kmです。市内の最高地点は南西端で、多摩川南岸にある御岳山の南方にそびえる鍋割山の山頂 1,084m です。一方の最低地点は市域の北東端にあたる成木川の河床で、103m となっています。南東端に近い友田先にあたる多摩川の河床が 129m なので、成木川の河床はそれより 26m 低いことになります。

成木川の源流は、市域の北西端にあたる標高 842mの黒山です。雑木に覆われた山頂には三等三角点が埋められています。山頂からは東方へ延びる常盤山と、南東方向の岩茸石山へのびる稜線が分岐し、成木川の源流はその直下に位置しています。源流から流れ下る成木川は、途中、^{きわざす}極指(成木 7 丁目)の奥では高さ約 6mの大滝で落ち、また^{おおざす}大指(成木 7 丁目)では比高約 5mの雨乞ノ滝を経て、東方へ流れ下ります。流路の両側がひらけるのは^{きゅうどう}久道(成木 5 丁目)から下流で、北小曾木川が合流する成木地区の中心地である^{おちあい}落合(成木 4、5 丁目)から下流になると、水田が現れます。

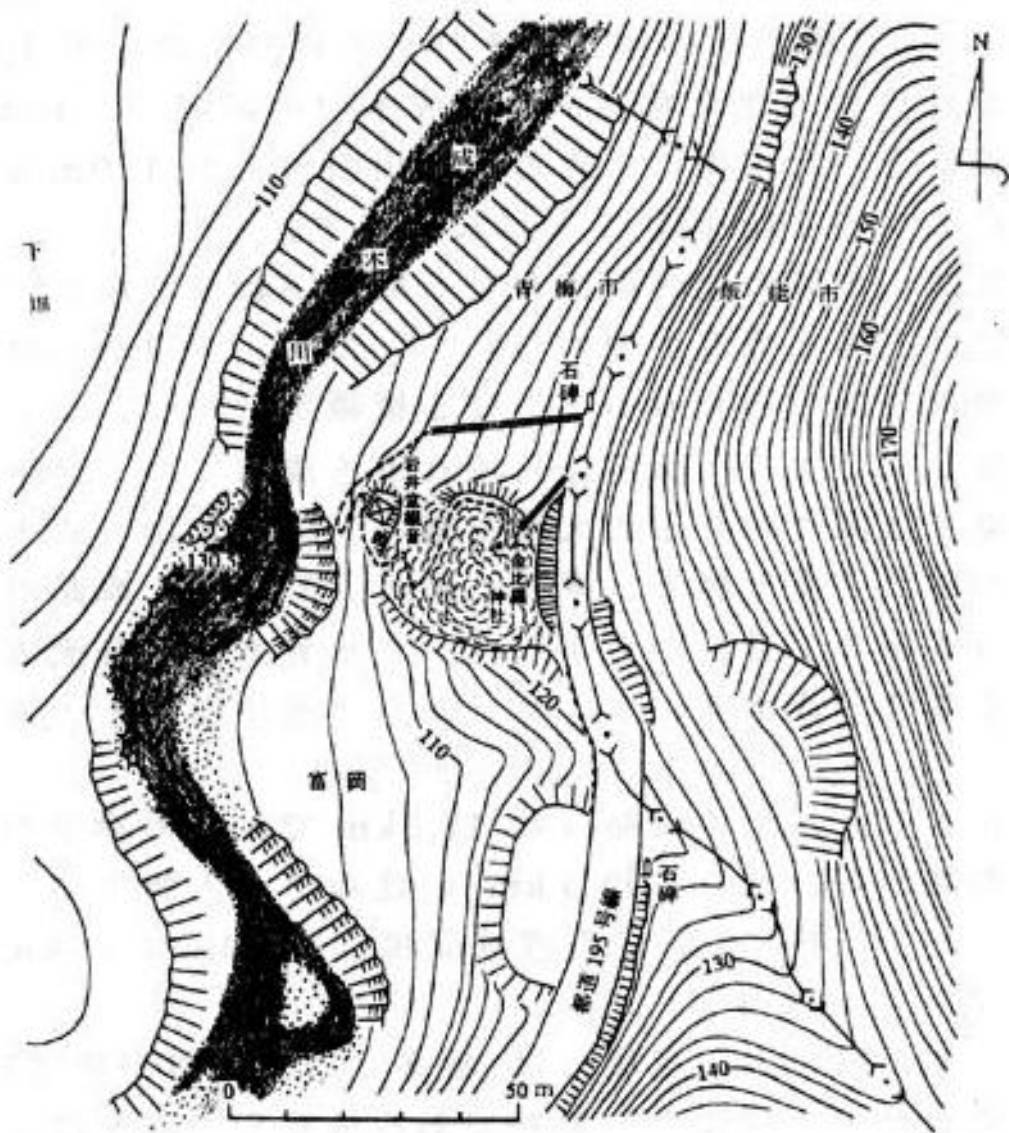
青梅市内における成木川の流路は約 17.3 kmで、その途中の都県境に架かっている両郡橋から、さらに約 3km の地点で、入間川に、さらに下流で荒川に合流します。市内における流域面積は約 29.6 平方kmで、市域全体の約 29%を占めています。

静かなたたずまいの成木川流域には、数多くの文化財が残されています。熊野神社や安楽寺など、信仰の対象物である神社や寺院をはじめ、あるいは江戸時代を通じて地区の基幹産業であった石灰焼きの竈など、数々ありますが、それらについては別の機会に紹介したいと思います。

青梅市内の最低地点である成木川の河床は、前述のように、標高は 103m ですが、付近の地形は峡谷の美しい景観となっています。これは、付近の地質が侵食に強いチャートと称される硬い地質であることと関連しています。流路の北側は、河床より 10m 前後高い河岸段丘となっていますが、南側は急峻な地形となっているため、昭和初期頃には、ダムを建設する計画があったといわれています。

市内北東端の集落である富岡 1 丁目から成木川に沿って飯能市岩淵方向へ都道が通じています。その途中の中腹に岩井堂があります。御堂へは、クサリの手摺りに護られた小道

を進み、風光明媚な場所に祀られていることもあって、古くから信仰を集めていました。14 坪前後の敷地にある御堂は一辺が 2 間(約 3.6m)の宝塔造、建物は立派で、納め物の状況や掃除が行き届いていることなどから、信仰厚い人々によって、今でも護られていることが分かります。御堂の脇にある岩の窪地には、頭部を欠いた 30 体前後の石仏が並べられていますが、古い歴史の中で、何らかの意味合いが込められているのでしょうか。



岩井堂付近の地形

図内の細線は等高線で、主曲線は 2m 間隔、数字の単位は m。金毘羅神社周辺の雲形模様は露岩で、神社は道路面より約 5.5m 高く、頂部は約 15m 高い。

(文責 角田 清美)